

臨床検査科

I プログラムの名称

慶應義塾大学病院 臨床検査科初期臨床研修プログラム

II プログラムの指導者

統括責任者

慶應義塾大学病院臨床検査科

部長 松下 弘道 教授

研修医担当主任 三ツ橋 雄之 助教

III 臨床検査科の概要・特徴・特色

慶應義塾大学病院臨床検査科は慶應義塾大学病院において検体検査および生理機能検査を担当する診療部門であり、7名の専任教員（医師）と約100名の臨床検査技師により構成されている。検査項目数、検査実施数ともに国内有数の規模を誇り、日々の診療に貢献するとともに、臨床検査分野の研究にも多く取り組んでいる。診療科を対象とした臨床検査相談室の設置も特色であり、診療科から発せられる検査および検査結果に関する疑問や問題の解決に取り組むとともに、臨床と検査の連携を推進している。

IV 到達目標

厚生労働省による「臨床研修の到達目標に準じる。

臨床検査科では臨床医として必要なプライマリ・ケアの知識を広げるために有用と考えられる臨床検査の知識および技術を習得する。

- (1) チーム医療：臨床検査において医師の果たす役割を理解し、臨床検査技師など技術系スタッフと協調して検査の実施および結果の評価を行う事ができる。また、他科医師およびコメディカルとの円滑なコミュニケーションをもつことができる。
- (2) 問題対応能力・診療計画：病態に即した検査を適切に選択・実施できる。
- (3) 安全管理：患者および医療スタッフにとって安全な検査実施方法について理解する。
- (4) 症例呈示：症例の病態・検査結果について適切に説明できる。
- (5) 医療の社会性：臨床検査が健康の維持管理や予防医療に果たす役割正しく認識するとともに、保険制度など医療の社会的側面における臨床検査の位置付けを理解する。

V 研修方略

- (1) 研修期間：研修期間は1ヶ月（4週間）を基本とする。
- (2) 研修概要：基本的研修として検体検査・生理機能検査について全般的研修を行い、臨床検査に関する基本的な知識と技術を習得する。その後は各検査領域について担当の指導医のもとでより専門的な研修を行い、知識および技術の習得を目指す。専門的研修を実施する検査領域および期間については研修医の希望をもとに個別にスケジュールを設定する。また、適切な検査を実施するために必要な採血の手技と技能の習得のため、研修期間を通して採血の実務研修を実施する。臨床検査相談室における研

修も平行して実施し、臨床検査科内外にて開催される CPC, 症例検討会やカンファレンスに参加する。

- (3) 検体検査：検体検査領域の研修では検体検査の各分野（一般、臨床化学、免疫血清、血液、凝固、遺伝子、微生物および採血）につき全般的な研修および分野を選択してより高度の専門的研修を実施する。採血を含めた検体の採取および取扱い、検査の原理の理解、検査手技、検査結果の解釈等について学び、臨床医として、また、検査を担当する医師としての対応や必要な技術、検査診断および報告書の作成、検査技師との協調的な検査の遂行などを習得する。
- (4) 生理機能検査：生理機能検査領域の研修では生理機能検査の各分野（心機能、呼吸機能、神経機能）につき全般的な研修および分野を選択してより高度の専門的研修を実施する。それぞれの検査分野において適切に検査を実施するための患者対応、検査の準備から実施までの検査手技、検査機器の操作や管理、結果の解釈等について学び、検査結果の解析や診断および報告書の作成、また、臨床検査技師との協調的な検査の遂行などを習得する。
- (5) 臨床検査相談室：臨床検査相談室は臨床検査科の医師と臨床検査技師によって運営される窓口部門であり、様々な診療科から寄せられる臨床検査の実施や結果の解釈などについての相談を受け、疑問や問題の解決に取り組むとともに、臨床検査に関わる様々な情報を集積するデータベースの役割を果たしている。臨床検査相談室における研修により、臨床医からの臨床検査に関するコンサルテーションに対応できる基礎を作るとともに、事例の検討により臨床検査に関する統合的な視点と問題解決のための知識を習得する。

VI 研修評価

研修内容に応じて各分野の指導医がそれぞれ研修評価を行い、それらの評価をもとに研修医担当主任が総合的評価を実施する。EPOC 2 にて「研修医評価票 I, II, III の自己評価および指導医評価」を行う。